

福井県三国・芦原地域における観光の現状と課題

Current status and future issues on Tourism in Mikuni-Awara Area, Fukui Prefecture

助重 雄久、三国・芦原地域観光調査グループ

SUKESHIGE Takehisa, The Research Group on Tourism in Mikuni-Awara Area

本研究では、福井県の代表的な観光地、東尋坊と芦原温泉を擁する三国・芦原地域の観光の現況を、観光客へのアンケート調査をもとに考察した。また、アンケート結果から三国・芦原地域における観光の課題を検討した。この結果、もっとも大きな問題点として浮かび上がってきたのが、石川県の宿泊地や観光施設との競合である。石川県内に宿泊する来訪客が三国・芦原地域のべ泊数に迫り、三国・芦原地域を訪れる観光客の立ち寄り地の上位に金沢や山代・山中温泉が入るなど、厳しい現況が明らかになった。

三国・芦原地域の近隣には、歴史的価値が高い観光地やファミリーに人気がある福井県立恐竜博物館等が1時間前後で移動できる範囲に集中している。これらを活かすとともに、近畿地方以西からの観光客や外国人観光客を取り込む新たな戦略を立てるなど「北陸新幹線ありき」の発想にとらわれない観光戦略が求められよう。

キーワード：東尋坊、芦原温泉、観光、福井県

I はじめに

2015年3月14日には北陸新幹線の長野—金沢間が開通し、関東や信州から北陸を訪れる観光客の増加が期待される。その一方で、北陸新幹線が完成していない金沢以西は、関東圏から来る場合、米原駅か金沢駅で在来線に乗り換える必要があり、北陸新幹線が直通する金沢以東に比べると関東圏からの観光集客では不利になる可能性が大きい。

なかでも福井県は、関東圏から定期高速バス以外に直通で往来できる手段がなく、自家用車で往来する場合も日本海岸か太平洋岸を大きく迂回せざるを得ない。一方、福井県は古くから関西圏との結びつきが強いが、近すぎる故に滞在時間が短い。また県内の観光地を訪れた観光客が県内に宿泊せず、石川県など他県の観光地や宿泊地に向かうことが多い。

本研究では、以上のような福井県観光の問題点をふまえ、福井県の代表的な観光地、東尋坊と芦原温泉を擁する三国・芦原地域の観光の現況を、観光客へのアンケート調査をもとに考察する。また、アンケート結果から三国・芦原地域における観光の課題を明らかにしていく。

II 三国・芦原地域および周辺の地域概要

坂井市三国町(旧坂井郡三国町)は、九頭竜川河口右岸にある三国湊を中心に栄えてきた(図1)。

三国町は2006年3月20日に春江町、丸岡町、坂井町と合併し、坂井市の一部となった。

三国湊は、古くは大和朝廷の水軍の基地として栄えたと考えられており、その後も海運の中心地として栄えてきた¹⁾。とくに江戸時代には北前船を利用した西廻り海運と、福井平野を流れる足羽川、日野川、九頭竜川を結ぶ内陸水運の結節点として繁栄を極めた。

また、三国湊北方にある東尋坊、雄島、越前松島の海岸には安山岩の柱状節理が発達した海食崖が連なっており、越前加賀海岸国定公園の一部となっている²⁾。2013年における東尋坊の年間入込客数は117万9,000人(うち県外客が96万1,000人)で³⁾、県内最大の観光地となっている。

一方、あわら市の芦原地区(旧芦原町)は、北陸でも有数の温泉地である芦原温泉を中心に栄えてきた。旧芦原町は2004年3月1日に旧金津町と合併し、あわら市となった。

芦原温泉は、1883年(明治16)に水田地帯にある灌漑用の掘り抜き井戸から鉱泉水が噴出したのを機に、周囲で次々と温泉井が掘削され、関西の奥座敷として温泉街がめざましく発展した。芦原温泉では1956年の大火を機に宿泊施設の近代化・大型化・高級化が進んだが、マス・ツーリズム時代の終焉や、周辺の温泉地との競合激化により経営危機に陥った宿泊施設も少なくない⁴⁾。近年では、宿泊施設や温泉街にある商店の廃業も目立つが、それでも2013年における年間入込客数は86万5,000人を数え、東尋坊に次いで第2位、温泉地では第1位であった。

三国・芦原地域の周辺には、図1に示したように、永平寺(2013年の年間入込客数48万1,000人)、福井県立恐竜博物館・かつやま恐竜の森(同73万3,000人)、越前大野(同57万4,000人)、一乗谷朝倉氏遺跡(同67万人)など、福井県内でも比較的集客力が高い観光地が多数みられ、芦原温泉を拠点としてこれらの観光地を周遊する観光客も多い。一方、芦原温泉で日帰り湯に立ち寄り、宿泊せずに他地域に移動する人々も増えていると考えられる。



図1 研究対象地域およびその周辺

Ⅲ 東尋坊・芦原温泉における観光動向調査とその結果

1. 調査の目的および方法

本研究では、三国・芦原地域を訪れた人々が同地域やその周辺でどのような観光行動をとっているのかを把握するために、アンケート調査を実施した。調査は2014年11月1日(土)～2日(日)に東尋坊および芦原温泉で実施した。調査対象者は、東尋坊や芦原温泉に来訪した観光客から無作為に選び、調査票の質問項目に基づいて調査者が直接対象者に質問する方法で実施した。質問項目は表1に示したとおりである。

2. 対象者の基本属性

1) 性別・年齢・同伴者

有効回答を得た調査対象者は462名であった。対象者が夫婦・カップルや、家族連れ、グループの場合は、原則として代表者1名に回答するよう依頼したが、2名以上が話し合いながら回答したケースもあった。このため、回答者の男女別内訳は男性262(56.7%)、女性186(40.3%)、2名以上で回答14(3.0%)となった。年齢別では20代未満10名(2.2%)、20歳代90名(19.5%)、30歳代85名(18.4%)、40歳代92名(19.9%)、50歳代96名(20.8%)、60歳以上83名(18.0%)、無回答6名(1.3%)で、20歳代～60歳以上の各世代がまんべんなく訪れていることが明らかになった。

同伴者別でみると、夫婦・カップルが156名(33.8%)でもっとも多く、次いで家族連れが136名(29.4%)であった。以下は、10人未満のグループ86名(18.6%)、10～29名のグループ37名(8.0%)、ひとり旅26名(5.6%)、30人以上のグループ9名(1.9%)、無回答12名(2.5%)の順であり、来訪客の8割強を夫婦・カップルや家族、9人以下のグループが占めていることが明らかになった。

2) 居住地域

調査対象者の居住地を都道府県別にみると、大阪府が77名(16.6%)でもっとも多く、愛知県の61名(13.1%)がこれに次いだ。以下は、福井県内41名(8.8%)、京都府27名(5.8%)、岐阜県24名(5.2%)、東京都22名(4.7%)、兵庫県21名(4.5%)、石川県20名(4.3%)、神奈川県・滋賀県が各15名(3.2%)の順であった(図2)。

助重ほか(2014)で実施した福井県立恐竜博物館(勝山市)でのアンケートでは、愛知県(21.9%)、石川県(11.8%)、福井県内(11.1%)、大阪府(8.2%)、兵庫県(6.7%)、滋賀県25名(6.4%)の順であった⁵⁾。この結果に比べると、今回の調査では大阪府の比率が高く、愛知県や石川県の比率が低かった。こうした差が生じた要因としては、①東尋坊や芦原温泉が、古くから観光地として大阪の人々に広く知られていること、②愛知県からは恐竜博物館のある勝山市の方が東海北陸自動車道の美濃白鳥経由で容易にアクセスできること、③石川県には東尋坊に似た海岸(能登金剛)や温泉(和倉温泉や加賀温泉郷)があるため、隣県に行くほどの魅力を感じないこと、などが考えられる。

3. 三国・芦原への来訪手段・回数

1) 利用交通手段

三国・芦原地域に来るのに利用した交通手段は、自家用車が317名で68.6%を占めていた(図

表1 アンケートに用いた調査票

三国・芦原地域における観光行動に関する聞き取り調査

1.お住まいはどちらですか？

a. 県外…都道府県名 [] b. 県内…市町村名 [] c. 国外…国名 []

2.出発地から三国・芦原地域に来るまでに利用した交通手段を教えてください。なお、複数の交通手段を利用された場合は、★の右側の [] 内に三国・芦原地域までの経路を、例にならって記入して下さい。

a. 自家用車 b. JR c. 飛行機 d. 乗合高速バス e. 観光バス(団体貸切) f. 観光バス(バックツアー)
g. 路線バス h. えちぜん鉄道 i. レンタカー j. バイク k. その他 []

★ [] 例:東京ーcー小松空港ーiー三国(東尋坊)

3.今回の旅にはどなたと何人で来られましたか？《人数にはご自分も含まます》

a. ひとり旅 b. 夫婦・カップル c. 家族と [] 人 d. グループ、団体等 [] 人

4.三国(東尋坊周辺)、芦原温泉に来たのは、それぞれ何回目ですか？

三国(東尋坊周辺) a. はじめて b. 2回目 c. 3回以上 d. 行ったことがない
芦原温泉 a. はじめて b. 2回目 c. 3回以上 d. 行ったことがない

5.今回の旅は何泊のご予定ですか？三国・芦原地域の泊数、他地域での宿泊地も教えてください。

a. 日帰り b. 1泊 c. 2泊 d. 3泊以上

うち三国 [] 泊、芦原 [] 泊、他の宿泊地 []

6.三国・芦原地域に泊まる方にお尋ねします。宿の情報はどんな手段で収集しましたか？《いくつでも回答可》

a. 旅行予約サイト(楽天・じゃらん等) b. 宿泊施設のホームページ c. SNS(Twitter、Facebook など)
d. パンフレット e. 旅行雑誌(るるぶ、まっぷるなど) f. 観光案内所 g. 口コミ h. 宿泊客のブログ
i. 友人・知人の紹介 j. その他 []

7.三国・芦原地域に宿泊される方におたずねします。今回の旅で泊まる宿はどんな手段で予約しましたか？

a. 電話で宿に直接 b. 観光協会・旅館組合の紹介 c. 旅行会社の窓口で
d. 宿のホームページから e. 旅行予約サイトから f. その他 []

8.どんなものに魅力を感じて三国、芦原地域を訪れましたか？《いくつでも回答可》

a. 温泉 b. 町並み散策 c. 歴史 d. 自然景観 e. 食べもの→具体的には []
f. イベント g. その他 []

9.今回の旅では、三国・芦原および周辺地域で、どんな観光地に立ち寄りですか？《いくつでも回答可》

a. みくに龍翔館 b. 越前松島水族館 c. 芝政ワールド d. 北潟湖 e. 金津創作の森
f. 丸岡城 g. 越前竹人形の里 h. 永平寺 i. 福井県立恐竜博物館 j. 一乗谷朝倉氏遺跡
k. 越前大野 l. 越前海岸 m. 敦賀(気比神社、赤レンガ倉庫等) n. 吉崎御坊跡
o. 石川県九谷焼美術館 p. 山代・山中温泉(こおろぎ橋等) q. 那谷寺 r. 栗津温泉
s. 片山津温泉 t. 金沢 u. その他 []

[調査地が東尋坊の場合のみ対象] v. 芦原温泉 [調査地が芦原の場合のみ対象] w. 東尋坊

10.三国・芦原地域に関する感想や要望があれば書いて下さい(地域全体、温泉、宿等何でも構いません)。
[]

[性別] a. 男 b. 女

[年齢] a. 20歳未満 b. 20歳代 c. 30歳代 d. 40歳代 e. 50歳代 f. 60歳代以上

ご回答いただきありがとうございます。

3)。これにレンタカーの20名(4.3%)を合わせると、全体の7割強が車を利用していった。一方、公共交通機関は鉄道50名(10.8%)、高速乗合バス5名(1.1%)、飛行機は17名(3.7%)であったが、前述した恐竜博物館でのアンケートでは自家用車とレンタカーで88.9%を占めていたのに比

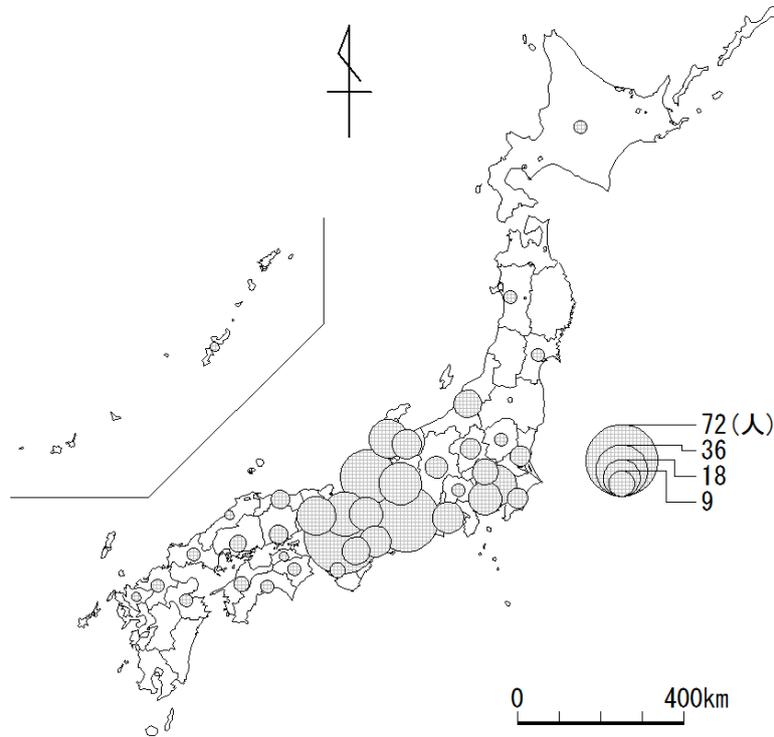


図2 調査対象者の居住地
(アンケート調査をもとに作成)

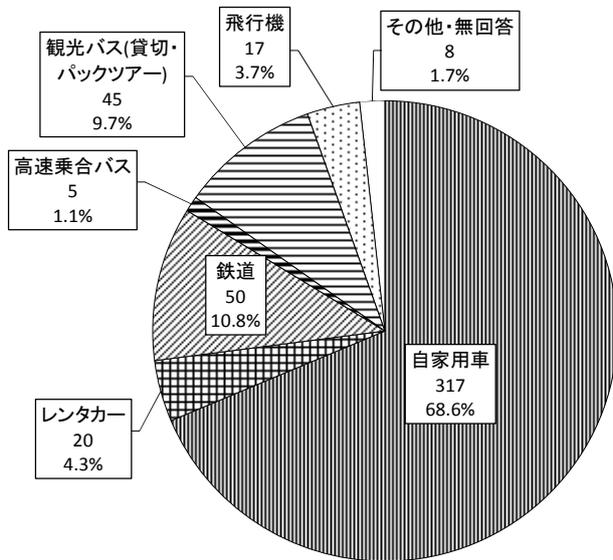


図3 利用交通手段
(アンケート調査をもとに作成)

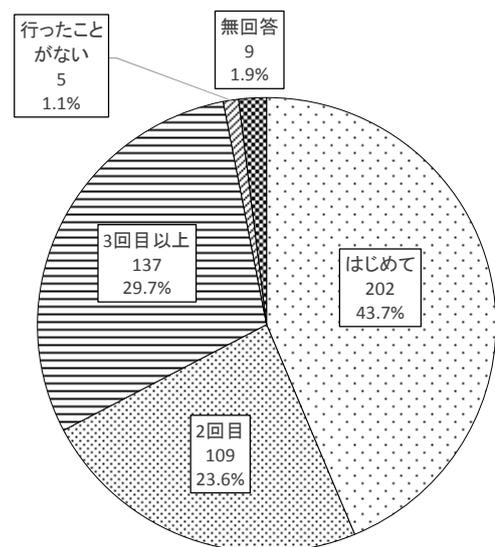


図4 東尋坊への来訪回数
(アンケート調査をもとに作成)

べると、車の利用が少なく、公共交通機関の健闘が目立つ。三国・芦原地域の場合は、JR 芦原温泉駅に特急列車が停車すること、JR 福井駅からもえちぜん鉄道が利用できることが、公共交通機関の利用比率を高めているものと考えられる。

また観光バス(団体貸切・パックスツアー)は45名(9.7%)であった。このうち、パックスツアー利用者は7名であったが、全員が50歳代か60歳以上であり、シニア世代にはパックスツアーでこの地域を巡る人も多いことがうかがえる。

2) 来訪回数

この地域最大の観光地である東尋坊への来訪回数は、はじめてが202名(43.7%)、2回目が109名(23.6%)、3回目以上が137名(29.7%)、無回答が9名(1.9%)であった(図4)。また一部の調査は芦原温泉で実施したが、これらの中には芦原温泉に来ながら東尋坊には行ったことがない者が5名いた。

4. 宿泊の状況と情報収集・予約

1) 宿泊日数・宿泊地

対象者462名を宿泊日数別にみると、日帰りが90名(19.5%)、1泊が267名(57.8%)、2泊が80名(17.3%)、3泊以上が21名(4.5%)、泊数未定・無回答が4名(0.9%)であった(表2)。日帰りの比率は、昨年同時期の3連休に恐竜博物館で行った調査で49.9%を占めていたのに比べると、大幅に低かった⁶⁾。しかし、宿泊すると回答した368名(1泊~3泊以上の合計)のうち、三国に宿泊するのは56名(1泊53名、2泊3名)、芦原に宿泊するのは71名(1泊68名、2泊3名)、計127名にすぎず、宿泊旅行者全体の約3分の2が他地域で宿泊していた。

表3は、三国・芦原以外でのべ泊数を示したものである⁷⁾。これをみると、福井県内では福井市が26泊でもっとも多かったものの、県全体で34泊にすぎなかった。一方、石川県は金沢市内26泊、山代温泉20泊、山中温泉17泊、能登半島、和倉温泉17泊、加賀市内、片山津温泉9

表2 調査対象者の宿泊日数

泊数	全体		三国泊	芦原泊
	人数	比率		
日帰り	90	19.5	—	—
1泊	267	57.8	53	68
2泊	80	17.3	3	3
3泊以上	21	4.5	0	0
泊数未定・無回答	4	0.9	—	—
	462	100.0	56	71

資料: アンケート調査をもとに作成

表3 三国・芦原以外でのべ泊数

県	宿泊地名	泊数
福井	福井市	26
	敦賀市	4
	他の福井県内	4
	計	34
石川	金沢市内	26
	山代温泉	20
	山中温泉	17
	能登半島、和倉温泉	13
	加賀市内、片山津温泉	9
	小松市内、栗津温泉	6
	他の石川県内	6
計	97	
他の県	富山県内	9
	滋賀県内	6
	岐阜県内	4
	上記以外の県	11
計	30	

資料: アンケート調査をもとに作成

泊、小松市内、粟津温泉 6 泊、その他 6 泊の順であり、県全体では 97 泊にものぼった。また、関東や関西以西から自家用車で来て、富山・滋賀・岐阜県内に宿泊する者もみられた。

以上の結果から、三国・芦原地域は温泉観光地であるにもかかわらず、宿泊旅行者の多くが立地や宿泊施設の規模・グレード・価格帯が競合する加賀温泉郷（山代・山中・片山津・粟津の 4 湯）や、市内に多くの観光地を抱える金沢市内に宿泊していることが明らかとなった。北陸新幹線開通後、関東から新幹線を利用して来訪する個人客や、新幹線+バスを利用するツアー客はこれまで以上に加賀温泉郷や金沢に集中する可能性が高い。こうした状況のなかで、三国・芦原地域への宿泊を促すためには、加賀温泉郷とのサービスの差別化や、近畿地方以西からの誘客強化が課題といえよう。

2) 宿泊情報の収集

図 5 は三国・芦原地域宿泊者 127 名のうち年齢無回答の 1 名を除く 126 名が、どのような方法で宿泊に関する情報を収集したのかを示したものである（複数回答可）。総数では、楽天トラベル、じゃらん.net 等の旅行予約サイト（回答数 60）が他を大きく引き離していた。以下は、宿泊施設のホームページ（10）、るるぶ、まっぷる等の旅行雑誌（9）、観光案内所（6）、口コミ（5）、パンフレット（4）、知人・友人の紹介（1）、宿泊客のブログ（1）の順であった。その他のなかには、旅行会社の店頭（8）、新聞広告（2）等の回答がみられた。

これらの回答を「デジタル世代」である 40 歳代以下と「アナログ世代」である 50 歳代以上に分けて比較してみよう。電子媒体は年代にかかわらず宿泊情報の収集に利用しているが、40 歳代以下は旅行予約サイトを多用しているのに対し、50 歳代以上は宿泊施設のホームページを多用する傾向がみられた。また、近年では SNS (Twitter、Facebook 等) を情報発信や常連客との双方向コミュニケーションに利用する宿泊施設が増えている地域もあるが⁸⁾、三国・芦原地域の宿泊者で SNS を情報収集に利用した人はいなかった。

次に電子媒体以外の利用についてみると、観光案内所を利用した 6 名は全員が 50 歳代以上であった。また旅行会社の店頭で宿泊情報の収集を行った 8 名のうち 7 名が 50 歳代以上であった。一方、パンフレットで宿泊情報の収集を行った 4 名は全員が 40 歳代以下であった。以上の結果をみると、50 歳代以上は観光案内所や旅行会社で人に「聞く」ことを重視するのに対し、40 歳代以下ではパンフレット等を用いた視覚的な情報収集を重視する傾向があるものと考えられる。

3) 宿泊予約の手段

図 6 は三国・芦原地域に宿泊者 127 名が、宿泊の予約をした手段は、電話で宿に直接連絡したのが 24 名（18.9%）、観光協会・旅館組合の紹介が 6 名（4.7%）、旅行会社の窓口での予約が 16 名（12.6%）、宿のホームページからの予約が 23 名（18.1%）、旅行予約サイトを利用したのが 38 名（29.9%）、その他 5 名（3.9%）、無回答 15（11.8%）であった。全国的には旅行予約サイトの利用が増加するなかで、三国・芦原地域の場合は宿への電話予約や旅行会社での店頭予約の割合が比較的高いといえる。

5. 三国・芦原地域および周辺の観光

1) 三国・芦原地域の魅力

「どんなものに魅力を感じて、三国・芦原地域を訪れましたか？」という質問に対する回答（複数回答可）は、自然景観（回答数 218）がもっとも多く、温泉（105）がこれに次いだ（図 7）。三国・芦

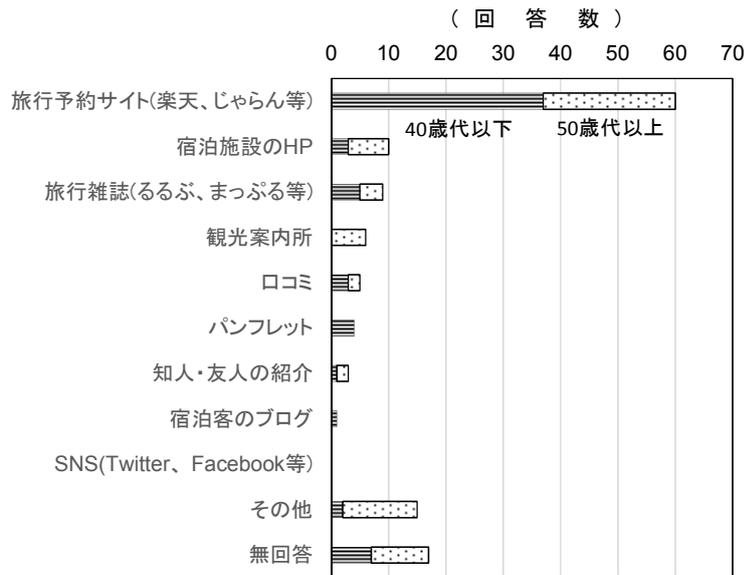


図5 宿泊情報の収集手段

(アンケート調査をもとに作成)

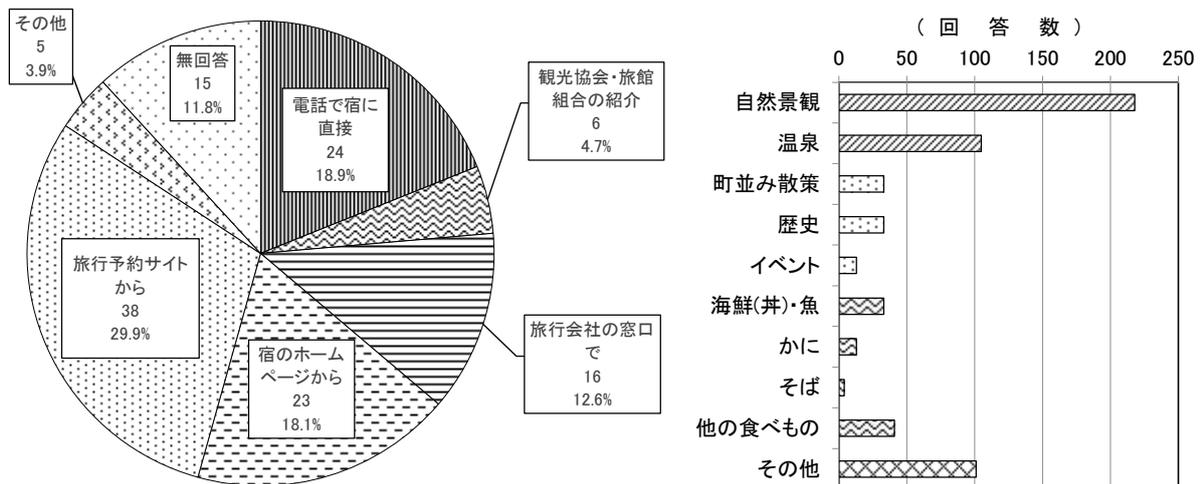


図6 宿泊の予約手段

(アンケート調査をもとに作成)

図7 三国・芦原地域の魅力

(アンケート調査をもとに作成)

原地域は、東尋坊から越前松島にかけて連なる海食崖と芦原温泉がメインの観光地であるので、この結果は当然といえる。

一方、人間活動の舞台である町並みの散策(33)や歴史(33)、イベント(13)等の人文系観光資源は、自然系の観光資源に比べると魅力としてあげる人が少なかった。この地域では、三国湊の町並み散策や歴史探訪も重要な観光資源となっているが、アンケートの対象者には三国湊の町並みや歴史について知らない観光客も多い。知名度の向上が今後の課題といえよう。

また、この地域は近海が越前ガニや魚類の好漁場となっており、海鮮・魚(33)、かに(13)を魅

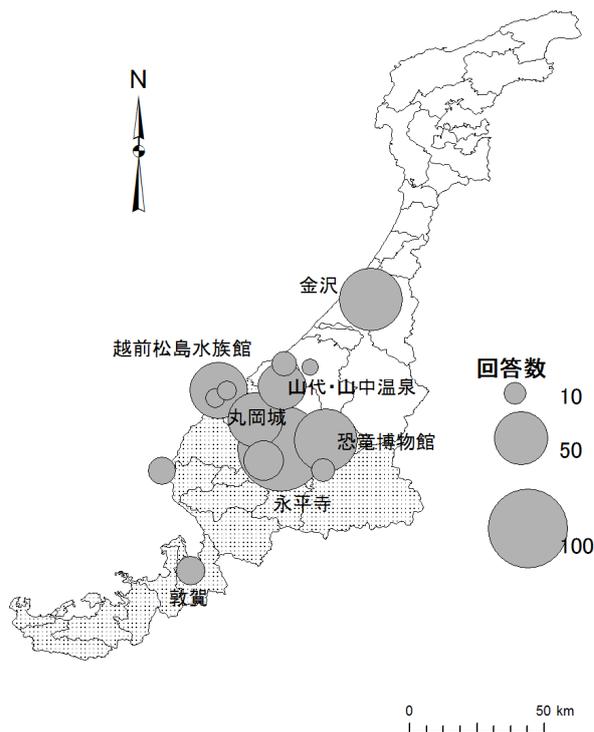


図8 周辺の立ち寄り先

(アンケート調査をもとに作成)

力として挙げた人もいた。アンケート調査実施日は、越前ガニ解禁の直前であったことから、解禁後であれば、かきを挙げる人がさらに増加するものと考えられる。

その他(101)と回答した対象者のなかには、「途中で立ち寄っただけ」、「社内旅行の周遊ルートに入っていたから」「有名だから」等、特定のものに魅力を感じていない人々も目立った。しかし、こうした人々が自然景観や町並みに魅力を感じ、また訪れてくれれば観光客は着実に増加する。とくに魅力に感じるものがないまま来訪した人々に、魅力を感じさせるような観光地づくりが求められる。

2) 周辺の立ち寄り地

三国・芦原およびその周辺地域での立ち寄り先(複数回答可、東尋坊・芦原温泉は除く)は、永平寺(回答数 117)、金沢(67)、福井県立恐竜博物館(66)、越前松島水族館(56)、丸岡城(53)、山代・山中温泉(41)、一乗谷朝倉遺跡(29)、敦賀(17)、越前海岸(15)、片山津温泉(13)、越前大野(12)の順であった(図8)。上位には永平寺、恐竜博物館といった著名観光地のみならず、越前松島水族館や丸岡城といった全国的には知名度がさほど高くない観光地も入っていた。

その反面、金沢や山代・山中温泉が上位に入り、福井県観光の問題点の一つである「県外流出」が露呈した。これらの結果をみるかぎり、北陸新幹線開業後は金沢や山代・山中温泉が観光客の目的地となり、東尋坊や芦原温泉は「ついでに立ち寄る観光地」になってしまう可能性もある。

IV おわりに—観光の活性化に向けた課題と解決策—

本研究では東尋坊や芦原温泉を擁する三国・芦原地域の観光の現況を、観光客へのアンケート調査をもとに考察してきた。この結果、もっとも大きな問題点として浮かび上がってきたのが、

石川県の宿泊地や観光施設との競合である。この結果はある程度予想されたものの、石川県内に宿泊する来訪客が三国・芦原地域のべ泊数に迫り、立ち寄り地の2位に金沢がランクされるなど、現況は予想以上に厳しいことが明らかになった。北陸新幹線開業後に富山・石川両県の宿泊施設や観光地に人々の目が向くことで、状況はより一層厳しくなるものと考えられる。

しかし、三国・芦原地域の近隣には、戦国時代の天守が残る丸岡城、一乗谷朝倉遺跡、越前大野など歴史的価値が高い観光地や、ファミリーに人気がある福井県立恐竜博物館、越前松島水族館などが1時間前後で移動できる範囲に集中しており、これらが連携すれば県内の滞在期間を延ばすことは可能である。さらに東尋坊や芦原温泉は関西圏では古くから知られている観光地であり、現況をみても大阪からの来訪客がとりわけ多い。また舞鶴若狭自動車道の全通で近畿地方以西からの利便性も高まっている。

こうした点を考慮すると、三国・芦原地域の場合は北陸新幹線にむやみに依存することは考えず、むしろ北陸新幹線依存が強まる富山・石川両県との差別化を図っていくことが必要であろう。そのためには、地域内の観光資源を磨き上げることがもっとも重要であるが、同時に近畿地方以西からの観光客や、関西空港、小松空港から入国する外国人観光客を取り込むための新たな戦略を立てることが重要と考えられる。

また、東京からは東海道新幹線米原駅経由や小松空港までの空路、供用区間がしだいに伸びている中部縦貫自動車道を経由するルートもある。とくに中部縦貫自動車道の路線沿いには上高地、乗鞍岳、飛騨高山、ひるがの高原などの観光地があり、これらに立ち寄る観光客を福井まで誘引できれば、中部山岳地帯を抜ける新しい観光ルートが確立できる⁹⁾。これらの点を考えても「北陸新幹線ありき」の発想にとらわれない観光戦略が求められよう。

本稿は、平成26年度「観光調査・分析法」で実施した福井県立恐竜博物館での観光客動向調査(2014年11月1～2日)の成果をもとに作成した。「三国・あわら地域観光調査グループ」に参加した学生は下記のとおりである。

【参加学生】

嶋田 佑里亜、村藤 鳳一、米田 学、劉 哲偉(以上4年)、大道 志麻、方 馨悦、村上 誉政、稲川 まり乃、前手 博貴(以上3年)、石場 清佳、大竹 美佳、奥村 圭太、甲斐 可奈、金子 日都美、坂口 詩織、佐野 里穂、柴田 有史、鈴木 有生、高田 有紀、張 芸偉、野村 彩乃、本馬 遼、松浦 健太、松木 峰音、宮崎 春奈、向口 和幸、森本 絵里香、ロッカ・ラスミラ(以上2年)

謝辞

調査の実施にあたっては、西 文雄氏、坂井市三国観光協会、東尋坊周辺の店舗や観光施設にご協力をいただいた。末筆ながらここに記して厚く御礼申し上げます。

注および参考文献

- 1) 林 和生(2007): 福井(坂井)平野とその周辺. 藤田佳久・田林 明編『日本の地誌7 中部圏』朝倉書店, 621-633.
- 2) 前掲1)
- 3) 福井県観光営業部観光振興課「福井県観光客入込数(推計)平成25年」による。
- 4) 前掲1)
- 5) 助重雄久・恐竜博物館観光調査グループ(2014): ジオパーク関連施設が周辺地域の観光にもたらす効果—福井県立恐竜博物館の事例—6, 87-98.
- 6) 前掲5)
- 7) 調査対象者が具体的な宿泊地域名を回答しなかった場合もあるので、表2の「全体」から三国・芦原地域を引いた数とは一致していない。

- 8) 助重雄久(2014)：宮古島観光におけるインターネットの役割とその変化．平岡昭利編著『離島研究V』海青社，221-238.
- 9) 以下の文献には、松本方面から飛騨高山・白川郷を通過して北陸方面に抜けるパッケージツアーが増加してきたことが報告されている。
助重雄久(2010)：高速交通網の整備と飛越観光の課題－募集型企画旅行に関する考察を中心として．大塚昌利編著『地域の諸相－地域が人を育て 人が地域を創る－』古今書院，139-150.